



「小池の熊野坐神社」の階段から眺めた飯田山



「小池の熊野坐神社」の境内にたえずむ狛犬。口の中が赤色です



「小池の熊野坐神社」の神社責任者の藤森さん



昨年再建された「小池の熊野坐神社」の拝殿

小池の熊野坐神社と前田水神社へ

「小池の熊野坐神社」の拝殿は6年前の熊本地震で倒壊し、昨年再建されました。

「戦国時代の永永2(1522)年に嘉島町の浮島熊野坐神社からの分神とされています」と話すのは、神社責任者の藤森和利さん(73)です。この場所は「飯田山常楽寺」の足元にあり、信者の参詣と修験僧たちが修行するための峰入り口として勧請されたと伝わっており、階段を上りきったところから、飯田山の姿を見ることが出来ます。

近くに集落の人たちの水の守り神として親しまれてきた「前田水神社」があります。明治初期に秋永地区からので願立が行われたそうです。熊本地



前田水神社にたたずむムクの木。秋には甘い実がなります



お話ぶりもとっても紳士的な富永さん

震で祠が倒壊しましたが、令和6年の再建に向けての復興が待たれます。境内には大きなムクの木がたたずみ、夏ともなれば涼しい日陰をつくります。

口ひげがステキなダンディな90歳

飯田山を望む地域の最も高い場所にある畑では、御年90歳になる富永清一さんが元気に鍬を振り上げています。作業ズボンにストライプのシャツできちんと身なりを整え、手入れが行き届いた自慢の口ひげが光ります。肌のはりつやもよく、甘いダンディズムを感じさせる富永さんは、若い頃はさぞやもてたことでしょう。

「もてたですよお、ほほ。何しろ第一印象が大事。だから身だしなみには特に気を使いますねえ。昔も今も、健軍



富永さんはスイカも育てています



高台の畑から飯田山が見えます

に飲みに行く時は和服姿と決めてます」と、さすがのお答えが返ってきました。

そんな富永さんの健康の秘訣は、おいしい物をたくさん食べて体を動かすこと。朝5時過ぎに起きて水田を見回り、畑の野菜を収穫し終えてから7時半頃に朝食。「ご飯やみそおつゆがおいしいこと」と笑う富永さんは、お酒も毎晩、日本酒を1合半ほど召し上がるそうです。

どうぞ、これからもお元気で。そして富永さんを見習って、おしゃれにも気を使うことといたします！